

北アルプス山行報告

(山 域) 北アルプス

(コ ー ス) 立山(室堂)⇒薬師岳⇒雲の平⇒双六岳⇒新穂高温泉

(登山方法) 縦走(小屋泊)

(山 行 日) 平成 28 年 7 月 29 日(金)～8 月 2 日(火)

(天 候) 7 月 29 日 曇り 30 日 曇り 31 日 晴れ 8 月 1 日 晴れ 2 日 曇り

(参 加 者) 篠塚 勇 (単独)

(山行タイム)

7 月 29 日 立山(室堂)9:00⇒龍王岳 10:30⇒獅子岳 12:20⇒ザラ峠 13:20⇒五色ヶ原山荘 14:20

30 日 五色ヶ原山荘 5:30⇒鳶山 6:10⇒越中沢岳 7:50⇒スゴノ頭 9:30⇒スゴ乗越小屋 11:40

31 日 スゴ乗越小屋 5:00⇒北薬師岳 7:45⇒薬師岳 9:00⇒太郎平 11:35⇒薬師沢小屋 14:10

8 月 1 日 薬師沢小屋 5:20⇒雲ノ平山荘 8:00⇒黒部源流 10:50⇒三俣峠 12:30⇒双六小屋 14:20

2 日 双六小屋 5:00⇒鏡平小屋 6:35⇒わさび平小屋 9:05⇒新穂高温泉 10:20

(山行報告)

時間に余裕が出てきたら縦走山行をしようと、一昨年は朝日連峰(以東岳⇒大朝日岳)、昨年は飯豊連峰(三国岳⇒飯豊山⇒机差岳)を山行し、今年は今回の山行だ。

◎7 月 28 日 姉ヶ崎駅 20 時 48 分発⇒新宿駅 22 時 15 分着。バスタ新宿 22 時 50 分発(夜行バス)

◎7 月 29 日 富山駅前 5 時 30 分着。地鉄富山駅 6 時 11 分発⇒立山駅⇒美女平駅⇒室堂 8 時 40 分着。室堂(2,450m)は観光客や登山する人で溢れかえっている。9 時、5 年ぶりの北アルプスへいよいよ出発だ。最初は浄土山(2,830m)へ、お花と雷鳥の歓迎を受けながらのかなりの直登だ。龍王岳分岐(2,870m)では休憩している中学生の集団登山組が賑やかだ。鬼岳(2,750m)を巻いて少し行った所でコンビニ弁当の昼食だ。獅子岳(2,740m)を過ぎ、下った峠が佐々成政の「さらさら越え」で名高いザラ峠(2,350)だ。登り坂を少し行くと木道となり 14 時 20 分五色ヶ原山荘(2,450m)に到着だ。以前、立山カルデラ砂防博物館を見学した時、興味のある登山道右手側の立山カルデラは、ガスが満タンで見えず(翌日も同様)、左手側もガスで遠い山波は見えず。登山道の両側のお花畑は、今回ルートの中では花の種類も多く今を盛りに咲き誇り一番の見どころだった。但し、小屋周辺は花の種類も少なくピークも過ぎていて少し残念だ。部屋はほぼ満室で、花目的の人も多く、半数以上はピストン型だ。

◎7 月 30 日 今日ガスがかかり、視界が開けず。小屋を 5 時 30 分出発、3 座の山越えだ。1 座目は鳶山(トビヤマ)(2,620m)への登りから越中沢乗越(2,360m)まで下り、2 座目の威風堂々とした越中沢岳(2,590m)に昇り返し更に急坂を下り、3 座目のスゴノ頭(2,420m)の急坂を登る。スゴ乗越まで下り、そこから少し上ったスゴ乗越小屋(2,370m)に 11 時 40 分早目の到着だ。今日はきついアップダウンの連続で時間は短かったが、かなりハードだった。計画案では次の山小屋までも考えたが、薬師岳山荘までは 5 時間かかりやはり無理だった。14 時を過ぎた頃、ドシャ降りの雨で、ズブ濡れの人が次々と到着だ。微妙な小屋位置もあってか、ついに定員(50 名)の倍だ。つまり布団 1 枚に 2 人で、ほとんど眠れず。

◎7 月 31 日 晴れだが遠い山々にはガスがかかっている。4 時半朝食でロングコースなので 5 時出発だ。間山(2,580m)の頂上手前で今回 2 度目の雷鳥親子に出会う。間山を過ぎ北薬師岳(2,900m)まで

は巨石の連続だ。北薬師岳から薬師岳(2,926m)までは両側にカールが切れ落ちた細尾根で、今回一番に緊張した区間で1時間15分を要した。薬師岳山頂は、展望も良く既に大勢の人(大半は折立からか)で一杯だ。17年前に周回登山(折立⇒薬師岳⇒黒部五郎岳⇒鷲羽岳⇒水晶岳⇒雲の平⇒折立)に來た以來で、当時は会う人もなく山頂もガスがかかっていた。休憩後、これからは下りだ。薬師岳山荘を通り過ぎ、薬師平(2,470m)までは巨石急坂の下りだ。薬師平はお花と池塘があり小湿原だ。更に沢を下り、若干上り返した所が薬師峠キャンプ場(2,300m)だ。水場の水量も豊富でトイレも綺麗だ。ほぼ水平の木道を25分ほどで太郎平小屋(2,350m)だ。ここはどのルートを行くにしても、要衝の地なので人が一杯だ。軽い食事をし、急坂300mを1時間ほど下り左沢出合(2,030m)、更にやや下り坂で所々現れる木道を1時間半程進み薬師沢小屋(1,920m)に14時10分到着だ。宿泊者の話を聞いていると、半数近くが高天ヶ原へ行く(行った)人で、私も高天ヶ原行き考え無くもなかったが、日程・体力等を考え断念したが、後で考えると今後行く機会はないと思うので、少し悔いが残った。溪流釣りの人も数人おり、隣床の人も少し上流部で尺超えのイワナを釣ったとのこと。今夜は1枚1人で珍しく静かで、睡眠も4〜5時間できた。

◎8月1日 空は晴れわたり今回一番の天気だ。今日もロングコースなので、食事後すぐ、北アルプスど真ん中へ5時20分出発だ。誰もがあの急坂は大変だという雲ノ平の木道末端まで約500mを、体調の良さもあり、滑りやすい大きな石の急坂を快調に足が進み約1時間半で切り切った。アラスカ庭園(2,460m)で小休憩し、奥日本庭園(私は庭園の中では一番景観が良かったと思う)を過ぎ、アルプス庭園には寄らずに、雲ノ平山荘(2,650m)へ。雲ノ平は「最後の樂園」と言われるが、私は雲ノ平の魅力は、広大な景観は勿論のこと、爽やかな空気のもと「天空の散歩道」の木道歩きが最大の魅力と思う。それにつけても木道の下は巨石の積み重なりで、先人達の木道作りの苦勞を思わずには居られない。山荘で小休憩し、雷岩の分岐でキュンブ場を下り豊富な水場の水で、上半身をタオルで拭き汗臭いシャツ・タオル・帽子を水洗いし、サッパリ気分ですら出発だ。祖父岳分岐(2,800m)の高台から雲ノ平山荘を真ん中に雲ノ平全体の見渡せる景観は最高の撮影スポットだ。名前倒れの日本庭園を過ぎ、黒部川源流部(2,400m)への急坂を浮石に注意し約1時間の下りだ。源流部から最初の一滴まで1km程なのに水量は豊富だ。昇り返し三俣山荘(2,550m)で休憩。外の水道配管を修理中なので、中の洗場の水を頂いたが、スタッフの対応が温かい。三俣峠(2,750m)までの登りが続き、双六岳巻道ルートを選び暫らくお花畑の下り坂を気持ちよく進む。双六小屋(2,600m)まであと1時間位の所でゴロゴロと雷の音。暫らくして雨がパラパラ。双六小屋を見降ろす坂を急ぎ足で降り小屋直前で大降りの雨に、ギリギリのセーフで14時20分到着だ。雨は夜半まで降り続いた。今までの身体の頑張りに至極の生ビールを一杯。同室の6人は笠ヶ岳のクリア谷ルートを9時間で登った猛者や、かなりベテランの登山者達だ。この小屋は収容人数(200名)も多く食事もお天婦羅など温かい物もでて、今回の小屋では一番食事が良かった。乾燥室も熱風が強烈だ。情報では、ちば山50年記念山行の最後の朝日小屋は、日本で一番の美味しい(真心のこもった)食事とのこと。

◎8月2日 曇り空だか遠くの山々も朝のうちはクッキリと見える。ご来光をカメラに収め、最終日5時出発だ。今日は多少のアップダウンはあるが、約1,500mの下りだ。今日も足は快調だ。小屋から弓折岳分岐(2,580m)まで約1時間は左手側に、14年前縦走した槍ヶ岳から西穂高岳の穂高連峰全域が見え続け、至福の時だ。7時過ぎには連峰頂上付近にガスがかかり、僅か2時間余りのベストビュー

ーだ。そこから鏡平小屋(2,300m)まで約 300m 下りの急坂を、小屋泊の人達が次々と登って来る。更にその下部のシシウドケ原(2,090m)・秩父沢出会(1,720m)・小池新道分岐(1,470m)間で大勢の登り・下りの人とすれ違う。新道からは砂利の林道だ。怪我もせず一安心だ。20 分ほどでワサビ平小屋(1,400m)だ。ここにはリンゴ・ミカン・トマト・キュウリなどが水で冷やしてあり、名物らしく私もリンゴを食べた(値段も手頃だ)。更に林道を 1 時間ほど歩き 10 時 20 分新穂高温泉のロープウェイ駅(1,090m)に到着だ。11 時 30 分発松本行の路線バスで 12 時に平湯温泉バスターミナル到着。予約してあった新宿行高速バスは 16 時発だったので、案内所で 1 便前の 14 時 30 分発が空いていたので変えてもらった。出発まで 2 時間程あるので昼食と 3 階の浴場で 5 日間の汗を流す。バスタ新宿に 19 時到着。21 時前に帰葉した。

今回の山行はアップダウンの連続できつかったが、雨にも合わず、ほぼ全ルートに咲いていた高山植物に癒された。又、立山カルデラはガスで残念だったが、最高の天気にも恵まれた雲ノ平の遊歩道、懐かしい穂高連峰の遠景、体力の証明と長年の夢が叶い大満足の山行でした。

以上



いざ出発だ



クロユリ(浄土山附近)



ニッコウキスゲ(スゴノ頭附近)



雷鳥(間山手前)



薬師岳から北薬師岳方面(右側は金杉谷カール)



薬師岳山頂



タテヤマリンドウ(太郎平手前)



黒部川に架かる吊橋(手前 薬師沢小屋・先 雲ノ平方面)



モダンな雲ノ平小屋



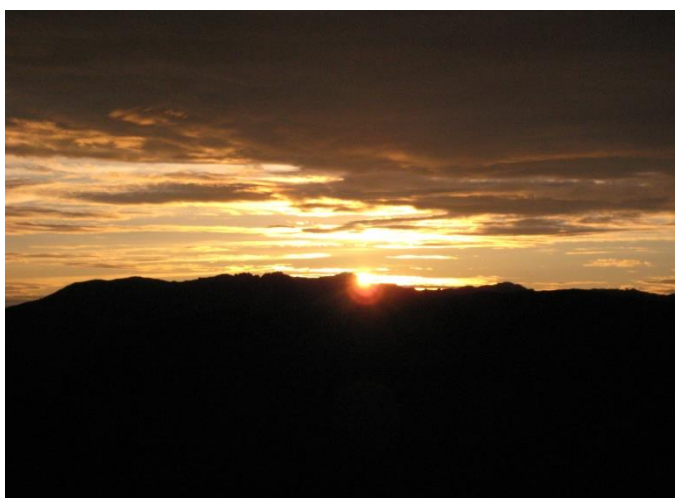
祖父岳分岐から雲ノ平方面(右奥薬師岳)
(台地中央の雲ノ平小屋(小粒)と手前下のキャンプ場)



黒部源流部乗越から水源方面を望む



三俣峠手前から鷲羽岳方面(左奥 水晶岳・
右中央赤屋根 三俣山荘)



双六小屋からのご来光(燕岳方面)



穂高連峰(左端 槍ヶ岳・中央 大キレット・
右端 西穂高岳)



噴煙をあげる御嶽山(左手前 乗鞍岳)